

実は“ほぼ同じ”…新型コロナ感染者『全数把握』東海3県の対応は重症化リスク高くない患者で対応分かれる

9/5 東海テレビ

全数把握の方法 見直しは…			
	重症化リスク 高い 患者	重症化リスク 低い 患者	
		発生届	項目数
愛知	これまで通り	必要	11 → 5
岐阜		必要	18 → 8
三重		不要	独自システムで 3つ 入力 (氏名・生年月日・住所)

新型コロナ感染者の全数把握について、東海3県の対応をまとめました。

高齢者や基礎疾患があるなど重症化リスクが高い患者は、3県とも変わらず国の情報共有システム「HER-SYS」での発生届提出を求めます。

対応が分かれているのは、それ以外の患者の場合です。

愛知県と岐阜県は、引き続き「ハーシス」で発生届提出を求めます。ただ医療機関の大きな負担だった入力時の項目数を、それぞれ半分以下に減らすということです。

愛知は氏名・住所・性別・生年月日・電話番号のみ。岐阜はこのほか、検体を採取した日または発症日、ワクチン接種の回数などが含まれます。

一方で、三重県はリスクの高い人以外は発生届の提出を求めないことにしました。代わりに独自で作ったサイトに氏名・生年月日・住所、この3つのみ入力。9月9日からこの方式になります。

一見知事によると、「ハーシスの項目を3つに減らそうとしたが、厚労省から減らせないと言われたので県独自のシステムを作った」とのこと。

3県を見てみると、三重だけ異なるようで、実はやっていることは「ほぼ同じ」と言えそうです。

「全数把握」9日から簡略化 新型コロナで三重県、新システム運用も 知事会見

9/5 伊勢新聞

一見勝之三重県知事は7日の定例記者会見で、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて逼迫（ひっぱく）している医療機関や保健所の負担を軽減するため、感染者の「全数把握」を9日から簡略化すると正式に発表した。

県によると、医療機関が提出する発生届は高齢者らに限定する代わりに、重症化リスクの低い感染者の氏名や居住地を県独自のシステムに入力してもらう。これにより、発生届は約2割に減ると見込む。

一見知事は発生届を限定しても県独自のシステムで感染者の支援を継続できると強調。症状が悪化した場合は医療機関や保健所、夜間相談窓口＝電話 059（224）2644＝に連絡するよう呼びかけた。

発生届を限定することで自宅療養者数が11日から公表できなくなることについては「必ずしも自宅療養者の数を把握する必要はない。重症者や容体が急変した感染者の対応をしっかりとすれば良い」と述べた。

https://www.tokai-tv.com/tokainews/article_20220905_21528

容体急変者の対応には懸念も…過渡期を迎えた新型コロナ感染者の『全数把握』医師らの負担軽減と懸念

2022/09/05 17:51配信

